

パンデミック下で持続可能な臨床検査体制構築のための基盤研究

地域全体の感染症検査力の向上をめざして



ふりがな

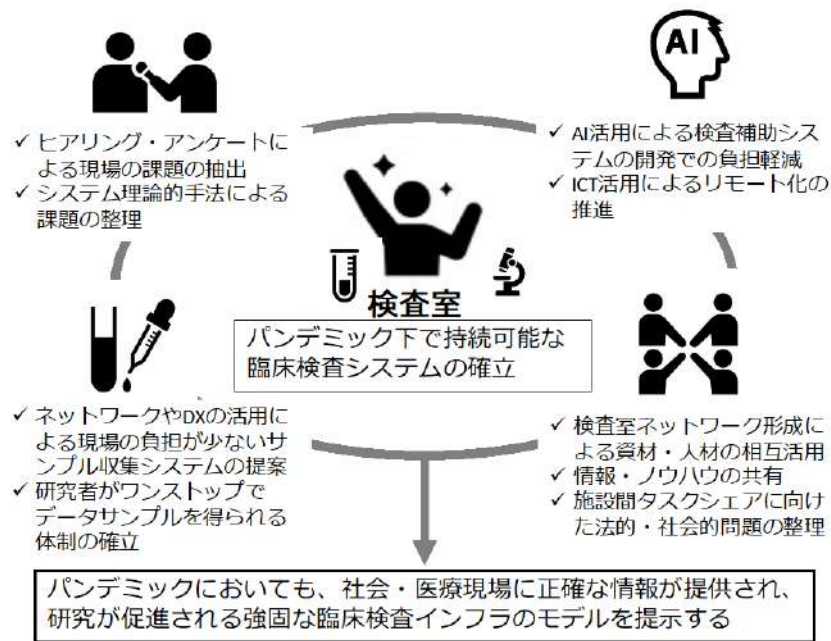
うわみの よしふみ

氏名：上 蓑 義典
所属・部門：慶應義塾大学・医学部・臨床検査医学教室
職位：専任講師
専門分野：感染症内科、感染制御、微生物検査

<研究概要>

私は、COVID-19パンデミックの中、院内感染制御とPCR検査の運営という点でまさに渦中にいました。慶應のような大病院では、人的・物的リソースを活用してなんとか乗り越えることができましたが、中小の病院では、検査体制の構築もできず、クラスターがどんどん広がっていき医療機能が停止する状況にありました。パンデミックのような有事に感染症と戦うためには、正確かつ迅速な病原体の検出が不可欠です。一方、全ての医療機関の検査室に高度な検査体制を構築するのは、平時にはかなり無駄が多くなってしまいます。

そこで、私は大病院と中小病院がネットワークを構築し、リソースやノウハウを病院間で共有し、タスクシェアを図ることにより、どのような医療機関でも最適かつ最善の感染症の検査・診断を受けられる体制を構築したいと考えています。また、微生物検査のDigital Exchangeの推進や、臨床サンプル・データを検査現場から研究室へつなげる体制づくりなど、効率的でしなやかな感染症検査を地域全体で実現するモデルを提案していきたいと思っています。



<略歴>

2007年慶應義塾大学医学部卒業、2011年亀田総合病院感染症科、
2014年慶應義塾大学医学部感染制御センター、2016年慶應義塾大学医学部臨床検査医学